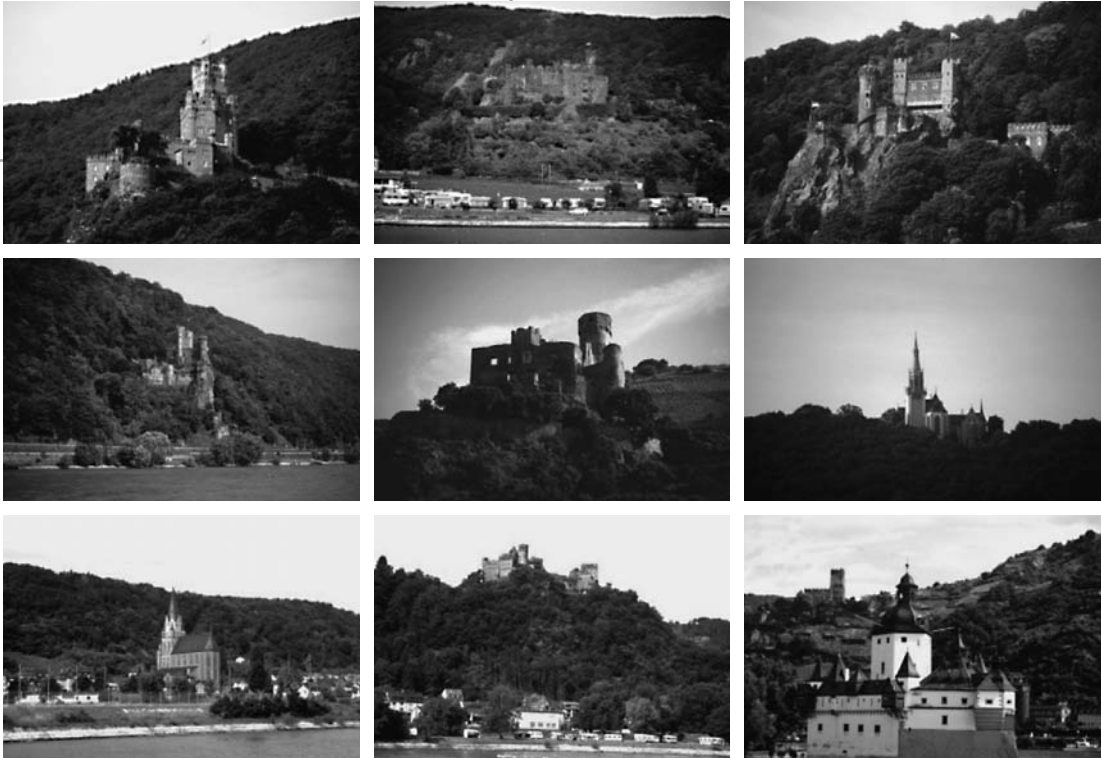


11月号
VOL. 493

土會奈良

593



SHIKAI

2016 NARA

表紙のことば

ライン川の古城



ライン川はスイスのアルプス トマーゼ湖を水源に端を発しドイツ国内を流れオランダ国内へと入った後、ロッテルダムから北海に注いでいます。全長1233kmの川でドイツ国内を流れる698kmの内、65kmがロマンチック・ラインと呼ばれ、ドイツ旅行のおすすめコースの船の旅になっています。ドイツのライン川の渓谷中流上部には、多くの古城や城砦が残っており、一帯は世界遺産に指定されています。ドイツではお城を、1つは軍事用のお城、もう1つは王家居住用に分類されています。ライン川渓谷に建つ数々のお城もこの2つのお城が混在して居ります。1千年規模の永い歴史を持つ古城は、当時最も近代的で最新技術を駆使した建築物として注目を受けたが、ほとんどが戦火に遭い、廃城・改築を繰り返されて現代に至っています。現代の城内は、見応え満載で貴重なステンドグラスや壁画、ルネッサン様式の暖炉、貴重な家具やワイングラスのコレクションを展示する郷土史博物館や大司教に従属する城主の館としてや、ライン川の重要な税関局やホテル、レストランや市議会の開催場所等々に使用されているとの事です。

(写真・文 提供 出原 眞)

情報・広報委員会

委員長	松尾 憲治	
副委員長	折目 貴司	大倉 克之
委員	乾井 哲	水守 寛敏
	松村 泰徳	小松原寛俊
	崎山 泰正	福西 保夫
	福本 保治	藤井 靖彦
	宮浦 重彦	

Contents

001 教育・事業委員会
「中古住宅という価値の行方」
インスペクター養成講座を終えて

002 日本建築総合試験所
鋼と建築 第4回「その後の柱梁
溶接接合部・日米比較」

004 女性委員会／青年委員会／
教育・事業委員会
「3委員会合同見学会“岡山・犬島
瀬戸内の風土と建築に学ぶ旅”」

006 桜井支部
桜井市内3地区「景観デザインコード
づくり」がスタート

008 住まいまちづくり委員会
共同パネル展「今、あなたと生きる
奈良の宝物」

009 大和ハウス工業
総合技術研究所
「インターンシップの取り組み報告」

010 青年委員会
「住宅省エネルギー技術講習会」について

011 郡山支部
「大和郡山城下町として大切にしたい
建物50選」

012 郡山支部
研修会「舞子、塩屋&竹中大工道具館
へ行こう!」のご報告

013 お知らせ
「今後の士会の予定／建築士定期講習
について」他



教育・事業委員会 中古住宅という価値の行方

“フローからストックの時代”に思うこと～インスペクター養成講座を終えて

時代の潮目は明らかに変わってきました。日本の人口は2008年を境に減少し市場は停滞して、もう右肩上がりの成長社会では無いことは誰でも判っていること。

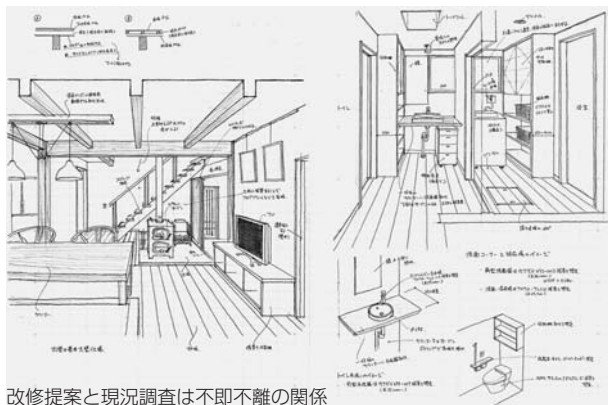
住宅戸数も、供給過多で随分前から余剰住戸は増え続け、空き家の数は年々増え、いまや800万戸を超えている。

しばしば指摘されるように日本の住宅寿命は極めて短く、滅失住宅の築後平均経過年数は30年程度。人間で言えば長生きして捨てられるか早死にするかといった結末。

日本経済が元気だった頃は古くなったら壊して新しい家を建てる事が良いこと、正しいことであったけれど、環境共生時代の昨今、今あるものを活かし、長く使い続けることに価値観を見出す時代がやってきたのは言うまでも有りません。しかし、リフォームや増改築、リノベーションに対する考えや意識はまだまだ過渡期であり、建築士をはじめとした技術者と市井の住まい手の思いや考え方には、まだまだ隔たりがあるのが実情ではないでしょうか？

一方で古民家再生、町家の利活用などというのは一種のブームみたいな感があり、それを自身の設計や施工のライフワークのように位置づける建築士も多くいます。古民家の再生や町家利活用はもちろん、とっても大事なこと。

しかしながら皆が目を輝かせて古民家だ、町家だという建築の数はやはり数少ないのです。そうでは無い、いわゆるただの「中古住宅」。これをどのように捉えるかが重要なカギになるように思えてなりません。



改修提案と現況調査は不即不離の関係

戦後、高度経済成長期に床座から椅子座に変わり（つまり和室が減り洋室が増えたことと同義）、続き間が減って個室が増えた（開け放てる引戸が減って、固定の間仕切りとドアが増えたことと同義）時代に多く建てられた家々。

それらの中にはどうしても無いバラックや、建てて売れたらハイOKというような安易な建売り住宅もあるでしょうが、多くの住宅はその土地の大工をはじめとした職方が、それぞれ身に付けた技能を発揮し丁寧に作った家であり、まだまだたくさん残っているはずです。

ただ部屋並べをしただけのでたらめな間取りでは無く、きちっと軸組小屋組が組まれた架構の中に間取りが内包されている住宅であれば、多様で魅力的な改修やコンバージョンが可能になります。このような中古住宅に光を当て、新しい価値観を付加し、愛着が持てるように昇華しながら再生活用していくことが、本当にこれからの時代に必要なのだと思うのです。



中古住宅の適正な維持管理の積み重ねが、やがて古い街並みをつくる！

そういった中古住宅を含む既存住宅の活用のため、国が「既存住宅インスペクション・ガイドライン」を定めました。ストック重視の住宅政策にきちんとシフトできるよう、なし崩し的なリフォーム・増改築ではなく、建築士など専門家による統一性をもった明確なルールの下、現況検査（インスペクション）を行っただけで中古住宅の売買や増改築など行う事を義務付けて行こうというのが主旨。

一定条件をクリアすれば補助も付けて行こうという考えです。こうした時流から建築・不動産などの関連団体がこぞって講習登録団体になり、団体ごとにインスペクターの養成を行っています。（公社）日本建築士会連合会も遅れてはなると参入したというところでしょう。奈良県建築士会としては初めてとなる「建築士会インスペクター養成講座」が、さる9月15日に奈良商工会議所で開催されました。56名の建築士が受講し、修了審査を受験しました。（全員合格で再受講者はいないとのこと。優秀！）

この資格は3年毎の更新が必要となり、その都度、更新講習を受講しなければなりません。今後、奈良県建築士会は毎年度このインスペクター養成講座を開催し、「建築士会インスペクター」として登録された建築士の皆様は3年ごとに更新講習を受講し継続的にスキルアップに励んで頂くこととなります。

今の世の中、建築関連資格は腐るほどあります。建築士会インスペクターが、形骸化した名ばかりの資格では無く、実益を伴う生きた資格として、広く世間に根付いていくことを期待するとともに、愛情を持って長く大切に使用される住宅が増え、そんな家々が集積した美しい街並みがこれからの日本に増えていくことを願って止みません。

（記・教育事業委員会 中尾克治）



1. はじめに

前回で兵庫県南部地震のときの鋼構造、それも角形鋼管柱・H断面梁ラーメン構造の建物に焦点を絞って被害の概要を振り返った。そのちょうど1年前の1994年1月17日の未明にノースリッジ地震が発生している。これは、カリフォルニア州ロサンゼルス市ノースリッジ地方で発生した地震であり、マグニチュードは6.7と兵庫県南部地震(M7.3)より小さいが、震源は14.6キロと浅く、高速道路の倒壊など、大きな被害が生じている。中でも、およそ100棟の鋼構造建物の溶接部に生じた被害（脆性破断）は、建物の残留変形が小さく、地震直後には露見しなかった。地震後1ヶ月ほどして被害実態が明らかになり、一時は見えない被害として社会問題にもなっていて、米国史上最も経済的損害の大きい地震被害となった。

1年後の兵庫県南部地震でも同様に梁端溶接部の脆性破断が発生し、当時日米の鋼構造研究者が連携して対策を検討していたが、その方向は、構造システムの違いもあって、同じではなかった。この稿では、両地震のその後について両国が歩んだ方向を概観してみたい。

2. ノースリッジ地震における梁端溶接部の被害¹⁾

当時の米国の鋼構造は、外周のラーメン構造（モーメントフレームと呼んでいる）が水平抵抗架構で、内部の柱は鉛直荷重のみを支持するといった形式で、柱・梁ともにH形断面部材が使用されていた。外周架構の接合部の典型例を図1に示す。梁ウェブは高力ボルト接合で、フランジはフラックスコールドアーク溶接（FCW；フラックス（溶剤）を内包した溶接棒を使用；ノンガス溶接法とも呼ばれる）による現場溶接である。

モーメントフレームの梁端接合部（図1）に関するノースリッジ地震被害の特徴は¹⁾、

- (1)破断は、主として下フランジ溶接部およびその近傍で生じ、その多くは溶接ルート部が起点となっていた。
- (2)柱や梁に塑性変形の痕跡が見られなかった。

上記(2)は日本の場合（図2；高応力脆性破壊が発生した建物）と比べて大きく異なっている点である。ただし、どちらも残留変形が小さかったという点は共通している。

3. 二つの地震後対策；日米の対応

金属の脆性破壊は劈開（へきかい）破壊とも呼ばれ、部材に直行する面に生じ、この点が断面の45度方向に破壊面が現れる延性破断と異なる。脆性破壊は塑性変形を伴わない破断（ノースリッジ地震時の場合）からかなりの塑性変形を生じた後に起こる破断まで、様々な応力・歪レベルで発生する現象である。脆性破壊は特定の条件下で発生する現象であり、一般には、次の3条件がすべて満たされる場合

に限って発生すると言われている。

- ①引張応力の存在
- ②切り欠きなどの欠陥（応力・歪集中源）の存在
- ③低靱性

曲げを受けるH形断面梁ではどちらかのフランジは必ず引張力を受けるので、①の条件を除くことはできない。それ故、溶接接合部の改善策は②と③を対象として研究が進められた。

米国では靱性が高い溶接棒が使用されるようになったが、単位時間当たりの溶接量は既存のものに比べて半減したという。また溶接部に作用する応力を低減する目的で、図3に示すようなRBS（Reduced Beam Section）工法を採用している。これらの結論を出すのには数年であったと記憶しているが、要するに米国は溶接コストを重視し、溶接部の負荷を減らすという方向でさっさとケリをつけた。

日本では、大地震に対して塑性変形能力の必要性が指摘されていたのを受けて、建築構造用圧延鋼材（S N鋼材）が震災前の1994年にJ I S化されていた。S N鋼材の大きな特徴は、靱性（シャルピー値）の下限値と降伏比の上限値が規定されたことである。

脆性破断は、欠陥などの歪集中域に発生した延性亀裂が起点となり脆性亀裂に転移して急激に破断する現象と言われている。溶接によって発生する様々な欠陥は歪集中源になる。高靱性化されたS N鋼によって脆性破壊発生条件の③に対応したことになる。しかし、繰返し塑性変形を受けると低靱性化するので、その対策として図4の拡幅工法が

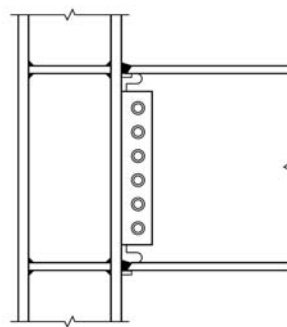


図1 H形柱・H形梁の接合詳細の例（米国）

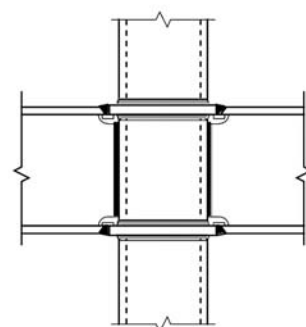


図2 角形鋼管柱・H形梁の接合詳細の例（日本）

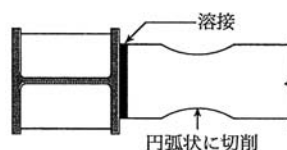


図3 RBS工法（ドッグボーン工法）

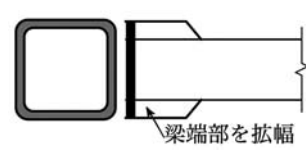


図4 梁端部拡幅工法

略 歴

井上一郎 (いのうえ かずお)

(一財)日本建築総合試験所 副理事長・試験研究センター長。工学博士。
1946年福岡県生まれ。1970年九州大学大学院工学研究科建築学専攻修了。
日立造船鉄鋼設計部、大阪大学工学部・助手、助教授、京都大学大学院
工学研究科・教授、岡山理科大学総合情報学部建築学科・教授を経て現職。

賞 罰

1997年 日本建築学会学会賞(論文)受賞。1998年 日本鋼構造協会奨励賞
論文部門受賞、2008年 日本鋼構造協会論文賞受賞

考案され、高層建物では拡幅工法が比較的多く採用されている。ただし、中低層の一般建物で使用されることはほとんどないようである。またノンスラップ工法を採用することで条件②の要因が除去され、塑性変形能力の大幅なアップが実験的に実証されている。ノンスラップ工法の図など、詳細については紙面の都合上割愛するが、例えば資料²⁾などが参考になるよう。

靱性は脆性破壊の発生限界に関する鋼材の指標であり、靱性が高いと脆性破壊が生じにくくなる。一方降伏比は部材の塑性変形能力を支配する指標である。その定義と意味を2種類の応力-歪関係に対して図5に示しておく。図6は高力ボルト接合部を想定した孔あき板の引張試験結果の一例である。この鋼材は降伏比が0.7以下であるため、有効板の母材(孔部以外の全断面)も塑性化しているが、降伏比が0.7より大きければ塑性変形は孔部だけに限定され、早期に破断することになる。また、曲げを受ける部材に関しても同様のことが言える。図7は同じ変形に対する片持梁の曲げモーメント分布に対する降伏比の影響を模式的に示したものである。降伏モーメント M_y を超える領域ではフランジが塑性化しており、降伏比が小さいほうが塑性域は広い。歪は塑性域が広いほうが小さく、破断に対する余裕が大きいことになる。

柱梁接合部の問題はS N鋼材を使用すればすべて解決できるというものではない。日本では米国(ノンガス溶接法)と異なり、炭酸ガスシールドアーク半自動溶接が標準である。両者の得失については資料³⁾に詳しいが、日米の差は文化の違いとしか言いようがない。溶接部に関しては、我

国でも柱梁溶接接合部に関しては多くの研究が実施され、現在も継続されているが、ほとんどが角形

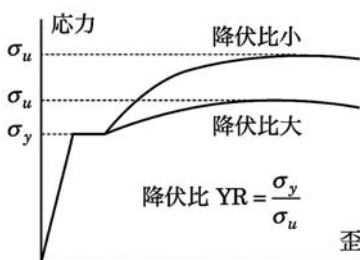


図5 降伏比の定義

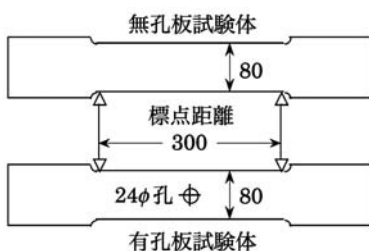
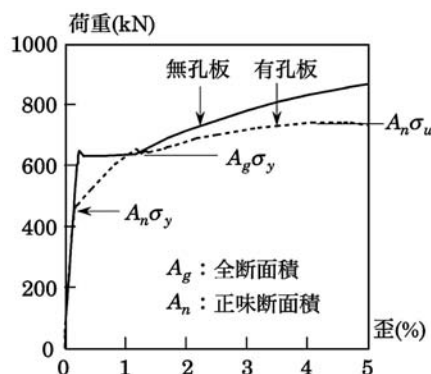


図6 無孔板と有効板の引張り力-歪関係の比較



鋼管柱・H形断面梁の接合部が対象である。

溶接は高級で繊細な技術であり、その品質は様々な外部要因に敏感に影響される。既往の研究成果を踏まえて、溶接に関しては、入熱量・パス間温度の制限、ショートビードの禁止など、脆性破壊に結びつくと思われるありとあらゆる因子を除去するために、溶接施工管理や接合詳細の規制強化という方向で落ち着いたように見える。

4. おわりに

日米両国の地震後対策に関しては、どちらも従来の工法の改善でケリをつけようとしたのであるが、日本は柱梁接合部周りの溶接箇所や溶接量が米国の場合より相当多いため、問題も複雑化したと言えるだろう。一方、米国は溶接棒の改善と溶接部に過大な応力・歪を作用させないという方向で比較的早期に決着をつけてしまった。

図1と日本の通しダイアフラム接合形式(図2)を比べると、日本のほうが溶接量が過大であることは一目瞭然である。それにしても、日本では一体いつから柱を切断してまた溶接するというまわりくどい方法が標準になってしまったのであろうか。このような工法は日本国内でしか通用しないと思えるのだが。

梁端溶接接合部に関して、さまざまな品質確保のための規制の強化が結局は鋼構造のコスト上昇を招いてそのシェアが低下し、ひいてはファブの生産量漸減という結末に結びかないともかぎらない。現にプレキャストコンクリート柱・鉄骨梁という合成構造の建物が増えつつある。

参考資料

- 1) 中島正愛：ノースリッジ地震－鉄骨接合部の被害－、建築技術、pp.66-73, 1994. 8
- 2) <http://image.search.yahoo.co.jp/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=ノンスラップ>
- 3) http://www-it.jwes.or.jp/qa/details.jsp?pg_no=0070010110

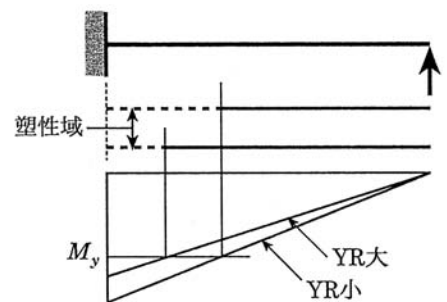


図7 片持梁の曲げモーメント分布と塑性域(同一変形時)



女性委員会／青年委員会／教育・事業委員会

3 委員会合同見学会

“岡山・犬島瀬戸内の風土と建築に学ぶ旅”

建築への旅「旅から学ぶもの」と題し、平成28年9月3日～4日1泊2日で岡山・犬島方面へ3委員会合同見学会を行いました。本年度は少し趣向を変え一般に公開していない場所を見学させて頂くことができるとあり、参加人数も今までにない定員を上回る36名参加となりました。



校門 備前焼の本瓦葺き

初日午前には旧閑谷学校へ訪れました。江戸時代前期の寛文10年（1670）に岡山藩主池田光政によって創建され、現存する世界最古の庶民のための公立学校だそうです。平成27

年4月に「近世日本の教育遺産群」として最初の日本遺産に認定されました。学ぶ心・礼節を重んじた近世の教育が、近代化の原動力となり、現代にも受け継がれていることが認められたのです。開校以来、講堂の床に正座し論語を学ぶ姿は旧閑谷学校の伝統であり現在も多くの研修生が訪れるそうです。その旧閑谷学校を代表する国宝の講堂の中は火灯窓から入る光が拭き漆の床にやわらかく反射する光景はまさに「学問の殿堂」と言われるのが理解できました。また印象的だったのが軒先に設けられた丸い通気口・水抜や備前焼瓦の屋根・石堀のディテールは職人の技量や心意気が堪能できる部分でした。ただ旧閑谷学校には特別史跡・国宝を始め多くの重要文化財があり、今回見て回ることでできない見どころはまだ沢山あり季節を変え、また訪れたい所です。



講堂(国宝)入母屋備前焼瓦



しころ屋根(創建当時は茅葺き)

内部は一本の丸柱・四方を囲む入側

初日のランチは岡山大学の津島キャンパス内に佇む小さなカフェ Junko Fukutake Terrace で頂きました。雲のような柔らかい曲線の特徴的な屋根の下は、不規則に配置された柱が立つ空間、木立の空間を散歩しているかのような建物とすることで、地域に開かれた大学であるという岡山大学のメッセージを伝え、学生や教職員、地域の人が集える施設とし、また大学と地域を繋ぐ架け橋として重要な役割を担っている。そんなコンセプトが感じとれた、まさに「建築が人をつなぐ」オープンテラスでした。



設計 SANAA 妹島和世・西沢立衛

午後の見学はバスで10分程度のノートルダム清心女子大学のキャンパスを見学させて頂きました。本来は一般見学はできないのですが奈良県建築士会と言う事で特別に見学させて頂きました。ノートルダムホール本館とノートルダムホール東館は、昭和4年(1929年)に建築され。建物の設計者であるアントニン・レーモンド(1888～1976)は帝国ホテルの設計でフランクロイド・ライトの助手とし来日しました。日本で人生の半分を過ごし、日本の近代建築史の上でも重要な役割を果たした人物です。この本館・東館は、日本における昭和初期のモダニズム建築の貴重な存在と言えます。今も竣工当時の姿のまま、学校建築地としての用途も変わらず、校舎として大切に使い続けられ、多くの学生たちに愛されていることから、素晴らしい建築遺産として、平成19年に文化庁から登録有形文化財として登録されました。



ノートルダム清心女子大学（設計：アントニン・レーモンド）

建物は鉄筋コンクリート造2階建て、中庭を取り囲む口の字型に配置されています。建物外観の特徴は、水平を意識した連続する切れ目のない庇の設置や、垂直方向を強調した柱と規則正しい縦方向の窓枠のデザインが印象的でした。



建物内部では、教室の廊下に面した丸窓や、日本の襖を意識したような教室入口の木製引き戸が見られました。

初日最後も、通常拝見させて頂くことはできない、岡山市在住の建築家・神家昭雄氏の自邸とアトリエを訪問させて頂きました。神家氏は主に住宅建築の設計に取り組み、現代の住宅に伝統的な和のエッセンスを息づかせ、地域風土に呼応する住宅を多く手掛けられています。また一方で地域において大切に受け継がれてきた古民家を再生させ現代生活に適した住宅や店舗などの施設として蘇らせる活動をされています。自邸はまさに神家氏がコンセプトとする住宅のキーワードをいたる所で感じ取れました。なかでも場所に応じてガラス戸に、障子、経木戸、戸襖、格子戸を組み合わせ、それらを生活シーンや季節に組み合わせて使い分けている。居間の低く抑えた大きな窓は青々とした田園風景を取り込み、意識を外へ外へ拡張させ、内部と外部を繋ぐ。土間は太陽が傾き始める午後3時頃から格子戸を通して入ってくる光が黒い床に光と影のモザイク模様をつくる。光と風と言うキーワードの一つを感じた部分でした。



建築家・神家昭雄氏自邸

次にアトリエへ案内頂きました。正面の外壁ラインは隣地に併せて軒を低く抑え、周りの住宅より一回り小さなスケールで静かに佇むように心掛けたそうです。ピロティー形式のオープンな駐車場から金木屋のある中庭は、打合せ室と本や資料が置かれた小屋を繋いでおり、この一本の木が計画を決めたそうです。建築は経験学で、建築家は誰も、自分が体験した建築から影響を受けている。 と言っておられたのが感じとれる様なアトリエでした。 今回の訪問では、大学まで御出向かい頂き長時間ガイド頂いた神家先生また大人数にもかかわらず手厚くおもてなし頂いた奥様・事務所スタッフの皆様には心から感謝申し上げます。



アトリエファサード



中庭の金木屋と小屋（書庫）

2日目は倉敷市児島にある旧野崎家住宅を見学しました。野崎家は、製塩業と新田開発で財をなした野崎武左衛門がその気宇に合わせて天保から嘉永年間に次々と築いていった豪壮な民家です。敷地面積は約3000坪・建物延床面積は、1000坪近くあり総じて、建物と庭園がこれほど創建のまま保存されていることは稀であり、山陽道の代表的民家といえます。昭和52年に岡山県指定史跡となり、平成7年に博物館登録、平成18年に国の重要文化財（建造物）に指定されました。



国指定重要文化財 旧野崎家住宅

最後は宝伝港より定期船にて犬島へ渡りました。まず見学に向かったのは、犬島に残る銅製錬所の遺構を保存・再生した犬島精錬所美術館です。「在るものを活かし、無いものを創る」というコンセプトのもと作られた美術館は既存の煙突やカラミ煉瓦、太陽や地熱などの自然エネルギーを利用した環境に負荷を与えない三分一博志の建築と、日本の近代化に警鐘をならし三島由紀夫をモチーフにした柳幸典の作品、また植物の力を利用した高度な水質浄化システムを導入し「遺産建築、アート、環境」による循環型社会を意識したプロジェクトといえます。また犬島では2010年から「家プロジェクト」がスタートし空き家や空き地が活用され、現代アートを展示する小さなスペースが犬島の集落に点在し、今では年間約3万人が訪れるそうです。この島もまた訪れたい所の一つとなりました。



犬島精錬所美術館

今回は台風が来ていたにも関わらず天候に恵まれた2日間でした。参加いただきました意識高き建築を愛する会員の皆様には深く感謝申し上げますと共に改めて旅から多くの学びものがあつたのではないのでしょうか、今後の見学会・研修会等のご参加もよろしくお願い申し上げます。

（記・教育事業委員会 中川幸一）



桜井支部

桜井支部メンバーが参画している桜井市内3地区(三輪・初瀬・桜井)のまちづくり 「景観デザインコードづくり」がスタート

〈今までの経緯と現状〉

平成16年に景観法が成立し、平成17年7月「三輪地域における地域に根ざした景観まちづくり」という奈良県の景観推進モデル事業が、主催者：県風致保全課とNMCまちづくり研究所兼当士会員、協力者：畿央大学兼当士会員（三井田教授）、運営主体者：森とふれあう市民の会兼三輪座の建築士が中心となり、「この事業の経験が、これから奈良県下で進められる景観計画の作成業務に活用されると共に、三輪地域において、景観を活かしたまちづくりが多くの人々を巻き込み新たな活動へ展開していく一助となれば」という主催者の想いで始まった。

事業内容は、住民を交えた座談会から始まり⇒景観調査⇒まち歩き⇒景観シンポジウム⇒啓発イベント⇒合意形成をはかるワークショップ⇒ルール・提案など景観まちづくり計画案⇒実践（景観教育、空き家改修等）と展開され、10年以上という期間の中で、NPO三輪座が生まれ、今西酒造は地域循環型の体験ツアーを展開、地域の主婦が町宿を始めるなど動き出した。現在は、三輪まちづくり会議が開催され、行政と地元住民と大神神社等により参道整備を含む周辺のまちづくりが検討されている。

そして、桜井本町通り地区では、6年ほど前から、商店主とNPO三輪座とNPO泊瀬門前町再興フォーラムから有志が合流し、当士会青年委員会とヘリテージマネージャーによる町家調査、畿央大学による提案、奈良県立大学～大阪工業大学・摂南大学による町家実態調査・実測調査・マップや看板作成・イベント・ヒアリング調査等、自治会の協力を得ながら県地域資源発掘発信事業～県エリアマネジメント推進事業～文化庁の文化遺産を活かした地域活性化事業～商店街活性化事業など展開してきた。

このような皆様のおかげで、現在、まちづくり協議会・官民プラットフォームな場(市検討会)・桜井まちづくり(株)が生まれ、空き家利活用普及啓発事業、空き家改修事業、景観啓発・アーケードを撤去したあとと修景改修等エリアマネジメント事業など見える形で動き始めた。

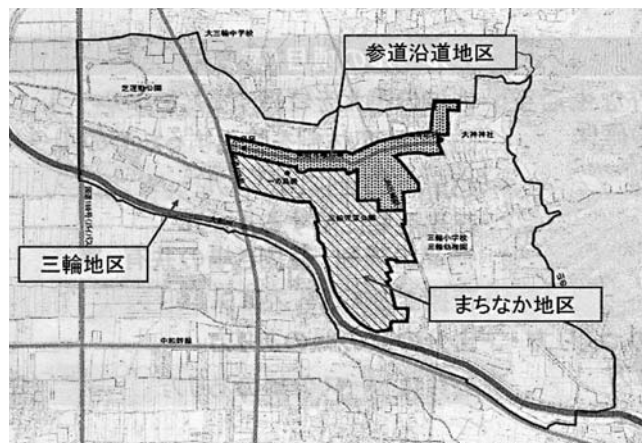
(記・桜井支部 中尾七隆)

〈三輪（大神神社参道周辺）地区〉

三輪地区における景観分科会（平成28年9月16日スタート）は、奈良女子大学の山本直彦准教授を座長とし、各地区推薦代表、三輪明神大神神社、市観光協会、市まちづくり部商工振興課、市都市計画課景観まちづくり係、建築士会桜井支部（辰巳、山本）で構成されている。今回、当士会として求められている点は、実際にガイドラインに準ずる建物を計画する場合、法的に問題がでないか、経済的なもの含めて検証して欲しいとのことであった。分科会初回にあたり、奈良女子大学により、三輪地区の町並みの実施調査について報告が行われ、今後は、平成27年度に作成された「まちづくり基本構想」に上げられた文言をより明確に具体化、視覚化した「景観ガイドライン」を策定するための話し合いを行う。

三輪地区の県道169号線から大神神社に向かう「参道沿道地区」は、三輪山への眺望を活かし、神社の神秘的な雰囲気を出し出す良好な景観の形成と、人にやさしく、且つ車の走行円滑性にも配慮した交通機能の向上を図るため、道路の拡幅や新たな店舗誘致の計画を持つ。一方「まちなか地区」は、恵比須神社や酒蔵、料理旅館、町家など門前町の町並みが残る住民の生活の場となっており、ガイドラインを考える上でひとくくりにはできない。来訪者と地区の生活者の双方の視点に立ったまちづくりが求められている。すでに動き始めている参道整備計画に遅れることのないよう、早急な検討、整理案の提出が必要とされている。

(記・桜井支部 山本規子)



〈初瀬（長谷寺門前町周辺）地区〉

初瀬地区における「景観ガイドライン」を策定するため第1回（平成28年8月8日）景観まちづくり分科会が開催された。分科会は、地元自治連合会初瀬支部区長会、NPO泊瀬門前町再興フォーラム、早稲田大学学術院／同大学都市・地域研究所（浅野名誉教授・佐藤教授・中谷准教授その他研究員・学生）、総本山長谷寺、県道路環境課、県地域デザイン推進課、県中和土木事務所計画調整課、市観光まちづくり課、市都市計画課、県建築士会桜井支部（米野・福本・藤本）が参加して行われた。初瀬地区は市景観計画で重点景観形成区域に指定されている。長谷寺や與喜天満宮神社をはじめとする多くの寺社仏閣が存在しており、初瀬門前町は長谷寺の参道として伝統的な建築物によってつくられる歴史ある町並みを残している。また、与喜山や初瀬川などの豊かな自然に囲まれているのも特徴のひとつである。初瀬地区の歴史的な町並みや自然環境を将来に継承していくため、早稲田大学の調査結果や町歩き等による実地調査をもとにデザインコードの抽出を行い、景観計画の基準を分かりやすく明確に示した「景観ガイドライン」にまとめていく方針である。また同時に、既存の景観計画の問題点を抽出し、ガイドラインや今後のルールづくりに役立てる。「景観ガイドライン」により景観計画に記載された基準を分かりやすく示すことで、住民に対して周知・啓発を促すことにより、住民の景観計画に対する意識を高める狙いがある。また、住民主体の景観まちづくりを支援するため、景観修景への補助等を充実させる予定である。

こうした過程を経ることにより住民の理解を得た上で、最終的には法的に拘束力のあるルールづくり（地区計画、建築協定、景観協定、美観地区など）も視野に入れ進めていく方針である。

（記・桜井支部 藤本和宏）



〈桜井（桜井駅周辺）地区〉

桜井駅周辺地区における「景観ガイドライン」を策定するため第1回（平成28年9月23日）桜井駅周辺地区景観に関するエリアマネジメント検討会が開催された。検討会は大阪工業大学（林田准教授）、本町通り・周辺まちづくり協議会、地元自治会、うるわしの桜井をつくる会、桜井木材協同組合、桜井市商工会、市都市計画課、(株)地域計画建築研究所、建築士会桜井支部（大倉・中川）が参加して行われた。

桜井駅周辺地区は、古くから伊勢（初瀬）街道の宿場町として発展してきました。現在も本町通り周辺には町家や社寺仏閣が立ち並び、歴史と文化を偲ぶことができるまちとして地域から親しまれており、桜井市景観計画で重点景観形成区域に指定されている。桜井駅周辺地区では過去6年間の活動により「まちづくりの将来像」を3つにしぼり込みました。

“らしさ”を活かす、“木”を活かす、ワンランク上の歴史・資源・ライフスタイルにぎわいあふれる住み良いまちさくらい。そして3つの資源とコンセプトは、公的資源：笑顔さく桜井、つながりつながるうるわしのまち、民間資源：夢を語れるまち未来をカラフルに、景観資源：まほろばの雰囲気を醸す古く、上品で、美しいまちなみ。将来像の具体化に向け、今後3ヶ年計画として景観資源の取り組みにおいて、今までの各実施調査・活動や他都市の事例をもとにデザインコードの抽出を行い、住民主体の景観まちづくりを支援するため、周辺住民の景観づくりに対する意識啓発、美化活動や景観学習、ワークショップなどへの参加による地域の愛着の醸成、景観修景への補助等を充実させ、歴史的・文化的経緯を理解した、地域住民の共通イメージをもった桜井駅周辺地区「景観ガイドライン」にまとめていく方針である。

（記・桜井支部 中川幸一）



これら3地区は、重点景観形成区域で、県と市によるまちづくり連携協定にも位置付けられた地区です



平成28年度文化遺産を活かした地域活性化事業 共同パネル展

今、あなたと生きる 奈良の宝物



主催 (一社)奈良県建築士会 赤膚山元窯保存会
共催 奈良県立図書情報館
後援 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会
助成 文化庁平成28年度文化遺産を活かした地域活性化事業

「今、あなたと生きる奈良の宝物」と題して2年間（平成26年度富雄地域、27年度平城地域）の歴史的建造物調査の取り組みの成果を多くの方に知って頂くためにパネル展を7月26日～8月7日の期間、奈良県立図書情報館で開催した。奈良市文化財課と共に事業を進めている赤膚山元窯保存会との共同となった。赤膚山元窯保存会は登録有形文化財の大型窯の解体修理と保存活用事業の趣旨と赤膚焼きの歴史をパネル展示された。

また、今年度のデザイン賞応募を控えていたこともあり、デザイン賞部会からお借りして前回のデザイン賞のパネルも展示し奈良県建築士会の活動も紹介した。

会場は図書情報館メインエントランスホールで沢山の出入りし、今までも多くの展示が行なわれている絶好の場所で私たちも緊張した気持ちで臨んだ。



また、赤膚元窯保存会と一緒に展示であったことで、大釜の改修現場や窯元の登録有形文化財の建物を案内して頂く機会を得て、奈良の伝統工芸の深い魅力に触れることが出来た。共同展示であったことで当事者も見学者も地域の状況に関心が高まったのではないのでしょうか。



パネルは各地区2～3枚で地区の特徴が読み取れるもの、分布図などで報告書を基に30枚、デザイン賞の6枚と合わせ36枚展示した。（右上写真は赤膚の古瀬堯三大型登り窯）

住まい・まちづくり委員会の「奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業」で地域の魅力や残る文化遺産は地域に入り歩くことで見えてきた気がする。私たちの身近なところにある建造物も、地域の歴史を伝え、歴史的な景観を形づくる大切な文化遺産です。現在、全国でこうした文化遺産を地域活性化につなげようという取り組みが進められている。今回のパネル展は調査の成果を伝えたが、この成果を地域に還元し「奈良の宝物」として後世に残すための活動につなげなければならないと考える。

委員会の今年度のこの事業にはパネル展、帯解地域の建物調査、登録有形文化財への詳細調査の3つが含まれる。帯解地域の調査は7月28日～9月22日の期間に4回実施し調査が完了。報告書作成と地域での報告会に向けての準備を奈良市と調整しながら開始している。登録文化財への詳細調査は26年度調査の富雄地域の調査物件の中から1件を来年度の1月～3月に行い、保存活用に向けての一步進んだ内容である。

ヘリテージマネージャーとしての実質的な活動が広がりつつある中で今回のパネル展は外に向けての啓発になったと思う。

（記・住まい・まちづくり委員会 徳本雅代）



インターンシップの取り組み報告

～大和ハウス工業総合技術研究所～

大和ハウス工業総合技術研究所では、奈良県立吉野高等学校のインターンシップ受け入れを実施しています。短期ではありますが、学校生活では得られない事業現場での実体験を通して、吉野高等学校で行っている進路選択とその実現に向けた教育活動に協力しているものです。当社の創業者の石橋信夫の故郷が吉野町であったことも本活動のきっかけになっています。

今年度は、夏の暑い最中の8月23日に、建築工学科2年生2名と森林科学科2年生1名がやってきました。



大和ハウス工業総合技術研究所

当社では、プレファブ住宅やシステム建築といった“建築の工業化”に続き、“農業の工業化”を目指しています。その第一弾として、住宅業界初の植物工場ユニット「agri-cube（アグリキューブ）」を開発し、2012年4月より商業施設向けに販売開始しています。その「アグリキューブ」に続き、倉庫の空いたスペース等の有効活用に役立ち、より高い生産性を目指した室内型の植物工場システムの実証施設にて、実際の栽培作業を体験してもらいました。



植物工場ユニット「agri-cube（アグリキューブ）」

さらに、研究所内の見学コースで当社の歴史や世界の環境共生住宅、当社のテクノロジーを体験いただきました。また、加齢に伴う自然な身体変化や、脳卒中などの病気の後遺症、けがや事故など傷害によって生じる日常生活の不自由さを体験できる「シニアポーズ」を装着して、高齢期の疑似体験もしてもらいました。最後に、参加した生徒たちからの感想を少しご紹介いたします。



世界の環境共生住宅フロア

***** 生徒の感想 *****

「……研究所を見学させていただき、大和ハウスさんで野菜を作っているのは、初めて知りました。さらに、土無しで野菜を作れることに驚きました。高齢者の方の体験をした時は、あれほど大変だとは思っていませんでした。貴社で学んだことを活かして、多くの人に喜んで頂く仕事に就くことを目標に、頑張っていこうと思っております。本当に、ありがとうございました。」

「……研究所では大和ハウスの歴史や建物を見せてもらって勉強になりました。」

「……普段できない体験ができうれしかった。」

「……野菜をもらって帰って美味しかった。」

「……色々な研究があり、家を作っているということが分かった。」

「……研究員の方と直接お話しすることができ、疑問が解決しました。」

「……建築士になる夢が膨らんだ。」

（記・郡山支部 折目貴司）



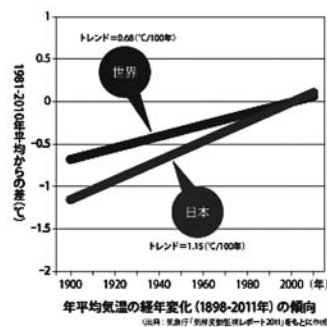
今回、奈良県建築士会館にて省エネ基準への100%適合化に向け、施工の適正な断熱施工技術等取得における「住宅省エネルギー技術講習会」が開催されました。



講習内容

- ・ 施工技術者講習テキスト「基本編」解説
- ・ 施工技術者講習テキスト「施工編」解説
- ・ 上記講習会終了考査の実施

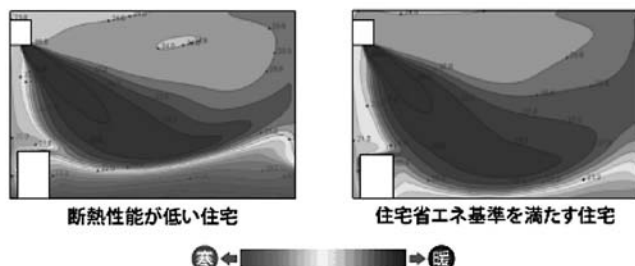
1) 日本の平均気温は 上昇の一途



2) 断熱の重要性住宅

エアコンで暖房している空間の温度比較

(出典：2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会「HEAT20」報告会資料)

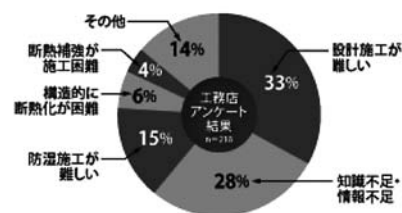


住宅の省エネルギー化に欠かせない技術が断熱ですが、断熱化には暖房室内の温度差および暖房室とトイレ・浴室

などの非暖房室との温度差を少なくできるメリットも。これが低い温度でも快適で温度むらがない住空間を実現し、部屋間の急激な温度変化によるヒートショックの予防にもなります。

3) 戸建住宅の省エネ基準適合率は5～6割程度

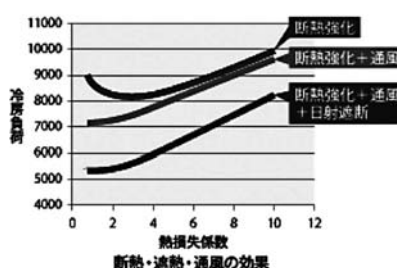
大規模建築物の省エネ基準適合率は約9割に達していますが、戸建住宅はまだ5～6割程度。特に、大工・工務店による省エネルギー基準に適合した戸建住宅の供給は、十分には進んでいないのが現状です。その主な理由は設計・施工が難しい、知識不足・情報不足というような省エネルギー技術の浸透の不十分さによるものです。



省エネ基準適合住宅を供給できなかった技術的な理由
(出典：国土交通省「講演資料「地域における木造住宅生産体制強化に向けた施策について」より作成」)

4) 近年増加している熱中症

室内での熱中症が増加。一方、省エネのためエアコンの温度を下げすぎないようにとの声も。これに対して、断熱化と適切な通風、日射遮蔽は室温を低下させます。



5) 適切な断熱化はエネルギーインフラが途絶えたとき 温度降下を防ぐ

災害や事故等で冬期にエネルギーインフラが途絶えると、



暖房設備が使えません。断熱化してあれば、温度降下をある程度防げ、防災対策としても効果的です。

最後に住宅のストック全体に対する新築供給の割合を考えると、既存の住宅の省エネルギー性能の向上は、新築住宅に対する以上に重要です。リフォームにおいてきめ細かな対応ができる地域の設計・施工者の活躍

の場が増えてきているように思えます。

(記・中谷淳一)



郡山支部

大和郡山城下町として大切にしたい建物50選

～「木嶋家住宅」聞き取り調査の記録～



【建物概要】

建 物 名 称：木嶋家住宅
所 在 地：今井町
当初の用途：質屋
現在の用途：専用住宅
建 造 時 期：大正15年
構 造 規 模：木造2階建

【建物現況と周辺状況】

郡山の箱本十三町を南北に貫く蘭町線に面した現在も専用住宅として活躍中の木嶋家住宅。前面道路を拡幅する際に曳家をして保存を行い、基礎は当初の玉石から布基礎となっている。お隣の押田商店とともに、通りの代表的な建物として存在感を示し続けています。

【歴史的特徴と建築的特徴】

大正末期に建築された時代を反映し、2階の天井高が1階並にある総二階建ての商家の町家です。木枠ガラス窓や2階のファサードのタイル張りなど、当時の建築的な流行の面影を残したファサードを現在に伝えています。「通り庭」の一部はキッチンに改装され土間が一部狭くなっているが、その上部の伝統木造建築の骨組みは当時のまま見事に保存されており、漆喰の白色と柱梁の黒色が美しく対比されています。

【建物の歴史・暮らしの様子・所有者の思い】

木嶋住宅は大正15年に質屋として向かいにある蔵とともに建築され、戦後はメリヤス会社の本社事務所として昭和30年まで事業用建物として活躍。その後、専用住宅として現在までお住まいになっています。

蘭町線は昭和25年頃に拡幅が決まったが、古くからの住民の多くが反対しなかなか整備は進まなかったそうです。先代からも「この建物は絶対に潰すな」と言われていたこともあり、平成の曳家の際には、裏にあった二つの質蔵を撤去し、庭も含めて移動・保存を行っています。木嶋様のご子息は大阪にお住まいで、将来は戻ってきたいとの気持ちもあるとのこと、次世代に住み継がれ郡山の歴史の記憶を伝える建物になることが期待されます。

(記・郡山支部 郡山城下町建物探訪部会)





郡山支部

研修会『舞子、塩屋&竹中大工道具館へ行こう!』のご報告

今年の郡山支部研修会は、「舞子、塩屋&竹中大工道具館へ行こう!」との触れ込みで盛りだくさんの企画をしましたところ、定員オーバーするほどの応募者があり、総勢20名でマイクロバスをチャーターしての研修会の旅となりました。当日、10月2日(日)は、秋晴れの晴天に恵まれ、本来の研修会の目的である神戸方面の歴史的な建築物の探訪には、最適な天候となりました。それでは、今回研修会での訪問先の行程と概要を以下に報告致します。

研修ルートとしては、①橋の科学館と明石海峡大橋プロムナード⇒②孫文記念館(移情閣)⇒③旧ジョネス邸跡、塩屋界隈の散策⇒④ジェームス邸(望淡閣)⇒⑤竹中大工道具館でした。



孫文記念館前にて集合写真

「橋の科学館」は明石海峡大橋をはじめとする、本州四国連絡橋の建設に使われた架橋技術を模型、映像、パネルで学ぶ事が出来ます。特に大橋の支柱を支える土台となる杭を作業工程であるケーソン工法の土木技術に想像を絶する凄さを感じます。

皆さんご存知の明石海峡大橋は、神戸市垂水区舞子と淡路市松帆の間に位置する全長3,911mの3径間2ヒンジ補鋼トラス形式の吊橋です。その吊橋の規模を示す中央支間間長は1,991mあり、主塔の高さは海面上約300mにもなります。潮流が激しく、水深が深い明石海峡に、橋梁技術の粋が集められ建設され平成10年に開通されました。

孫文記念館(移情閣)は、中国の革命家・政治家・思想家である孫文を顕彰する日本で唯一の施設で、1984(昭和59)年11月に開設されました。この建物はもともと神戸で活躍していた中国人実業家・呉錦堂の別荘「松海別荘」を前身としており、1915(大正4)年春、その別荘の東側に八角三層の楼閣「移情閣」が建てられました。その後、兵庫県が神戸華僑総会から寄贈うけ改修を行い、さらに明石海峡大橋の建設ともない解体、現在地に移転、復原工事を行いました。国の重要文化財でもあります(参考資料1)。

*復原工事期間: 1998年12月~2000年3月

*復原工事費: 11億3700万円

*敷地面積: 1,581.00㎡ *建築面積: 368.53㎡

*延べ床面積: 738.46㎡

*構造: 移情閣 木骨コンクリートブロックコンクリート造3階建
付属棟 木骨煉瓦造2階建 管理棟・RC平屋建

その後、神戸市の塩屋地区を訪れました。ここより、住創研の浅見氏、溝呂木氏にご参加いただき、旧ジョネス邸の保存運動の経緯経過のご説明を受けました。地域住民を中心とする保存運動も空しくこの建物はマンション開発のため2013年秋に解体撤去されました。現在、マンション敷地の片隅に跡地としての記念碑が残っています。

*設計施工: 不詳、竣工: 大正8(1919)年

*構造: 木造2階建一部地階(住創研論文より)

また、塩屋界隈に現存する洋館(旧後藤邸、グッケンハイム邸、竹内邸)などの解説を受けながら、次の訪問予定地であるジェームス邸に向けて散策しました。浅見氏からは論文「地域資産としての近代住宅の保存継承に関する研究」をいただきました。大和郡山支部の活動である歴史的建築物調査・保存の事業において、今後の参考指標になると思われる。是非、この論文を読み切りたいと思います。

ジェームス邸(望淡閣)は、英国人貿易商だったアーネスト・ウィリアム・ジェームス氏が1934年に建設されました。戦後に三洋電機の創業者である故井植歳男氏の自邸として購入し、外観は同社の迎賓館として利用されました。外観は、クリーム色のスペイン風の寄棟造の地上2階、地下1階建てで、館内には大理石の暖炉や高い板張りの壁など高い板張りの壁など、英国風の意匠が凝らされています。神戸市指定有形文化財でもあります(参考資料2)。

*設計施工: 竹中工務店 *竣工: 昭和9(1934)年

*構造: 鉄筋コンクリート造2階建て地階付き、塔屋付き。



ジェームス邸にて

竹中大工道具館は、竹中工務店が、兵庫県神戸市中央区に1984年(昭和59年)に開設した企業博物館です。現在は、神戸市中央熊内町7へ新築・移転し、2014年(平成26年)10月4日から新館での展示が一般公開されています。大工道具を収集・保存することを目的とした日本唯一の博物館



お知らせ

Information

となっています。建物は鉄筋コンクリート造り（一部鉄骨造り）の地上1階・地下2階建てで、延べ床面積は約1,884㎡あり、中庭に面した土壁は、平らな壁を鏝で削って凸凹を付けた「版築壁」と呼ばれるもので、西宮神社などでも用いられている伝統的な技法を左官職人が手掛けて作り上げたものとなっています。展示内容は、木造建築に使った道具の展示や、その道具の使い方を解説するパネルや映像の展示もあります。また、「木組」などの日本の伝統建築が紹介されていて、釘をほとんど用いずに建築する日本の伝統的な木造建築の「木組」の技術を間近で見られるように原寸大で再現した（唐招提寺金堂組物、茶室）などの展示もあります（参考資料3）。



竹中大工道具館にて集合写真

今回、旧ジョネス邸跡、塩屋界隈からジェームス邸までの散策に、住創研の浅見氏、溝呂木氏にご同行いただき旧ジョネス邸の保存運動の経緯経過のご説明を受けました。結果的には保存出来ず解体撤去となりましたが、保存活動をしていく中で、「旧ジョネス邸を地域（有志）で買い取る方法」という新しい発想が生み出されたそうです。今後、郡山支部も住創研がジェームス邸をはじめとする塩屋の洋館群の保存活動で研鑽された論文に学び、大和郡山市の歴史的建築物の保存と利活用の事業に生かしていきたいと思っています。最後になりますが、この度は奈良支部・生駒支部・橿原支部からもご参加いただき、交流を深める場にもなったこと、郡山支部を代表してお礼申し上げます。

（記・郡山支部 平田正裕）

（参考資料）

- 1) 孫文記念館ホームページ、入館パンフレット
- 2) マイナビニュース「兵庫県・神戸市の歴史的洋館『旧ジェームス邸』を婚礼施設に再生（2012年12月10日）」
- 3) 竹中大工道具館（Wikipedia）

●平成28年度表彰者のお知らせ

日本建築士会連合会会長表彰

戸尾 正明 様（奈良支部）

坪岡 秀明 様（橿原支部）

伝統的技能者表彰

山本 吉治 様（山本工務店）

平成28年度第59回建築士会全国大会「大分大会」（10月22日開催）会場において表彰されました。

心よりお祝い申し上げます。

●平成29年 新年大交歓会のご案内

新年大交歓会を開催いたします。

是非ご参加ください。

日時：平成29年1月27日（金）

場所：橿原観光ホテル（奈良県橿原市）

※詳細は後日ご案内差し上げます。

●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会（更新及び新規登録）

開催日：平成29年1月19日（木）

会 場：奈良県文化会館 小ホール

※詳細、申込については後日ご案内差し上げます。

※会場へはなるべく公共交通機関をご利用ください。

●平成28年度一級・二級・木造建築士定期講習についての お知らせ

【第3期】

日 時：平成28年12月6日（火）

場 所：奈良県産業会館（大和高田市）

定 員：100名

受付期間：10月11日～11月18日（延長しました）

【第4期】

日 時：平成29年2月23日（木）

場 所：ホテルリガーレ春日野（奈良市）

定 員：60名

受付期間：12月12日～28日

●平成28年熊本地震義援金についてのご報告

平成28年10月22日（土）に開催されました第59回建築士会全国大会「大分大会」にて当会瀨上徳光会長より熊本県建築士会会長に義援金24,860円をお渡しいたしました。

ご協力いただきました会員様方に厚く御礼申し上げます。

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏 名	支部	勤務先〒	勤 務 先 住 所	勤 務 先
古 市 陽 介	奈良	630-8424	奈良市古市町2112番72	(株)光住宅一級建築士事務所

編集後記

日本社会の高齢化、成熟化が著しく進む中、住宅・建築市場の動向も大きく変化していています。近年特に注目されているのが、「中古住宅」かと思えます。

本号でも教育・事業委員会の中尾副会長が「中古住宅という価値の行方」の中で書かれているように、一概に「中古住宅」といっても、年月を経てどうしようも無くなったもの、その土地の大工をはじめとした職方が丁寧に作ったもの、あるいはレジェンド的な古民家・町家まで、様々なレベルに分類することができます。

郡山支部では、「郡山城下町建築探訪部会」の活動として、どちらかといえば地域におけるレジェンド的な歴史的な建築物に焦点をあてたヒアリング調査を行い、報告書をまとめました。そして、今年度は本号でもレポートされているように舞子にある国の重要文化財「孫文記念館」、塩屋地区にある神戸市指定有形文化財「ジェームス邸」、市民による保存運動の末、残念ながら取り壊された「旧ジョネス邸跡」など

を研修会として訪れ、今後の活動の参考にしようとしています。

今回の研修会で得られた知見の一つは、レジェンド的な建築物の保存利活用の多くは行政的なバックアップがあって成り立っている、ということでした。ここには、歴史・文化・芸術や地域の誇りといった社会的な価値を個人の直接的なお財布ではない行政の経済が支えています。

ただし、「ジェームス邸」は、研修会のレポートにもありますように、企業の創業者が購入された後、現在では婚礼施設やレストランとして再生し、事業的な価値も両立しており、そのスキームなどももっと学ぶ必要があると感じました。偶然ではありますが、放送中のNHK連続テレビ小説の「べっぴんさん」の坂東家のシーンはジェームス邸で撮影されたようです。

歴史的価値と実用的価値、そして幸運の女神（セレンディビティ）をいかにつないでいくのか、縁結びとしての建築士の活躍も期待されるのではないのでしょうか。（記・折目貴司）

士會奈良

通巻610号
平成28年11月1日（発行隔月1回1日発行）

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 瀧上 徳光
編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会
印刷所 株式会社 明新社

Calendar

2016年11月

- 3(木) ☒ 文化の日
- 6(日) 橿原支部30周年記念式典
- 16(水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 20(日) 第2回スキルアップ講習会
- 23(水) ☒ 勤労感謝の日
- 28(月) 中大規模木造設計セミナー

Calendar

2016年12月

- 1(木) 二級・木造建築士試験合格発表(予定)
- 3(土) 第36回近畿建築祭 京都大会
- 6(火) 第3定期講習 (奈良県産業会館)
- 8(木) 理事会
- 11(日) 第3回スキルアップ講習会
- 15(木) 一級建築士試験合格発表(予定)
- 21(水) 住宅相談会 (奈良県建築士会館)
- 23(金) ☒ 天皇誕生日
- 29(木) 年末年始休業 (～3日まで)

重要なのは「今」の合格実績! 合格者数No.1の総合資格学院!!

平成27年 1級建築士 設計製図試験

奈良県
合格者占有率

No.1

奈良県 合格者占有率

57.5%

奈良県合格者40名中、当学院現役受講生23名
<平成27年12月17日現在>

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。※都道府県合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表による。

平成27年 2級建築士 設計製図試験

奈良県 合格者占有率

46.3%

奈良県合格者54名中、当学院現役受講生25名
<平成27年12月31日現在>奈良県の合格者のおよそ2人に1人は、
当学院の現役受講生!法定講習 一級・二級 建築士定期講習/管理建築士講習
第一種電気工事士定期講習/監理技術者講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習

法定講習サイト(検索)

開講講座 1級・2級 建築士/1級・2級 建築施工管理技士/1級・2級 土木施工管理技士/建築設備士
構造設計1級建築士/設備設計1級建築士/宅地建物取引士/インテリアコーディネーター

総合資格学院

学院長 岸 隆司

奈良校 TEL.0742-30-1511

<http://www.shikaku.co.jp>

総合資格

検索

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

Facebook 「総合資格 fb」で検索!